

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 3月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2873500165		
法人名	社会福祉法人 光寿福祉会		
事業所名	グループホーム 千手荘		
所在地	姫路市夢前町宮置819番地 (電話) 079 - 335 - 2466		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年 2月 8日	評価確定日	平成20年3月19日

## 【情報提供票より】(平成20年 1月20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算	11人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	160 円	昼食 310 円
	夕食	310 円	おやつ (3食に加算) 円
	または1日当たり		780 円

## (4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	14 名	男性	1 名	女性	13 名
要介護 1	1	要介護 2	5		
要介護 3	6	要介護 4	1		
要介護 5	1	要支援 2	0		
年齢	平均 85.7 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ツカザキ記念病院、井口皮膚科、澤田整形外科
---------	-----------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

姫路駅から車で北へ20分。三方を緑深い山に囲まれた山腹に建てられている。春の桜、5月新緑、秋の紅葉など自然を目、耳、口、全身で感じる事が出来る。隣には特別養護老人ホーム、後方には有名な古刹と、自然環境の良さが特徴である。早春とはいってもまだ寒い時期、玄関先に置かれたプランターには咲く花は無かったが、綺麗に掃除された玄関を入れれば、15人の家族(平均要介護度2.6)が過ぐすりビングは暖かく、窓から入る陽光は常春、そこには職員の暖かい笑顔が満ちており、窓からは近い山並み、遠くに民家、また足元を見やれば、野菜づくり様の畝が、目に入る。壁に貼られた理念は分りやすく、施設長と職員の纏まりのよさも特徴であり、ご家族の信頼も大きい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	入居者の満足度を高める為には、更なるニーズの掘り下げが必要との指摘を受け、より積極的に生活史などを踏まえての職員側からの働きかけにより、15人15色の色あいの違ったサービス(やりたい事、やれそうな事)が実践できつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	副施設長のリーダーシップの元、全職員が取り組んでいる。こだわる事が必要な課題点(ケース記録など)も認識できており、一步一步進めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	今回の訪問時点ではまだ開催できていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ご家族の訪問時を利用して近況報告をし、同時に要望を聴くように取り組んでいる。敬老の日に家族に集まってもらうなど機会作りも心掛けています。ご家族の要望を個別ケアに活かし、よりよいケアの完成に向き合っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	当ホームが山腹に立てられていることもあり、民家が近くにはないが、ショッピングセンターへの買物では店員と交流、喫茶店で店主に笑顔、地元小学校、幼稚園とは異世代(孫)交流をされている。また、地元の秋祭りには、稲刈りを終えた田園風景も心に刻むなど、孤立しないように外に目を向けている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔愛語一期一会」「安心安全快適な日々」が理念である。園だよりがホームの壁に貼られており、職員及びご家族に浸透している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「笑顔で始まる」サービスを実践し、「入居者の笑顔」で返してもらうことを心がけている。一期一会を理念としており、機会あるごとに副施設長が語りかけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地理的な問題もあるが、出来る範囲で地域の祭り事、お城まつり、学校の行事、町の文化祭に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	入居者毎の個別ニーズの実現に取り組んでいる。出来るだけ沢山の情報をご家族から集め、出来る事を伸ばし、出来ない事を支援する基本形のケアに向き合っている。「したい事」がニーズに上がる為にも精神面の評価が大切であることを認識している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今回の外部評価日(2月8日)時点では、運営推進会議ははまだ開催されていない。</p>	○	<p>運営会議のメンバーは多岐にわたるので、足りない所・課題点などが思わず解決できる近道になる事もある。ホームのサービスを高める上でプラス効果が多いので、開催を希望する。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>姫路市との合併前には地元社会福祉協議会の主催により、当法人(地域交流ホーム)での開催で「ひとり暮らし交流会」が毎年行なわれ、広く社会的認知を受けていた。合併後立ち上がっていない。</p>	○	<p>せっかくの当法人の社会的資源としての位置づけが、このまま消滅では淋しい。何かそれ相当の行事は難しいのでしょうか。法人が頑張る事は、ホームの認知にもプラス効果があるので、惜しい気がしますでしょうか。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時にご家族に近況報告を行う事が多い。金銭出納帳の確認を受け、サインを貰っている。金銭を自己管理している入居者もおられる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>今のところ、ご家族からの不平・不満は寄せられていないが、真摯に受け止め、入居者の満足度向上に努めていきたいとの姿勢がある。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今の時点では全員女性職員である。職員の異動は少ない為に利用者へのダメージはない。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などへの参加は、ホームをあげて積極的に実施されている。職員の半数が、認知症実務者研修を受講済みである。終末期ケア研修にも参加した。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流は活発ではない。以前より交流している所とは継続した関係があり、運営に生かしている。	○	更なる交流を深められ、ホームのサービス向上に努めて欲しい。他の施設を見学する事でも、何か新鮮な気づきをもたらされて、大きな一歩を歩むことが期待できるので、今後も更なる努力を望む。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から入居に至るまで、全職員は、入居者の安心と納得を大切にされた支援を第一義に心がけ、入所による混乱が最小になるように取り組まれている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は心を合わせてケアに取り組んでいる。特に、楽しみの場である食事時には、出来る範囲での役割り作りも支援している。一期一会という理念が支えである。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コーヒー好きの入居者のために家族が外出に誘う事がいつまでも続くように職員は優しく見守っている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>週に複数回の外出希望（楽しみにしているコーヒーを飲みたい）が家族から出され、以前の生活リズムを継続させていくことが入居者のQOL（生活の質）を維持する事でもあるので職員側の支援が続いている。普通の生活を送れることの幸せを職員は自問しつつ、ケアに取り組む姿勢がある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>足腰の弱ってきている入居者に対してご家族の希望（下肢の強化、歩行の機会を増やす）を組み込んだ計画書が作られた。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>デイサービス・ショート利用などの申請は行なっているが、空き部屋がないので機能はしていない。受診の支援・買物同行は行なっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>歯科が近隣にある。また、皮膚科などの協力医療機関も確保できている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>同一法人の併設の特別養護老人ホームでの経験があるために、戸惑うこと無く自然な形で、家族の意向を尊重しながら、かかりつけ医と職員が共に方針の共有をされている。職員が全員参加して見送りをしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録時、プライバシーの保護にも努めている。また、入浴は個浴で行なわれて、入居者の誇りやプライバシーを損ねない配慮がされている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>慣れ親しんだ平凡な暮らしが一番の幸せに近い、との思いで入居者を支えている。ご家族との外出（高齢者夫妻）を愉しみにしている入居者の幸せ時間が、今後も続いて行くように応援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部委託されていない。準備・下膳に、入居者は参加されている。本日のおやつ作りは、どて焼きで、満腹の先に笑顔が満ちており、入居者は食事を楽しんでおられる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上の入浴ができています。個人浴を楽しんでいる。希望者には随時対応(回数増)できる。	○	浴槽が深く、職員の介助も大変になってくるので何らかの対応が必要ではないでしょうか。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、モップでの床掃除、食事の下膳、習字クラブ、ドライブ、買物、おやつ作り、リハビリ体操など、一人ひとりに合った楽しみや力を発揮する場面が用意されており、職員は入居者との語らいから、更なる工夫を重ねておられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのショッピングセンターへの買物、喫茶店、弁当を持っての花見、自然たっぷりの環境を上手く利用している。	○	これからは春の季節で外出には最適である。国宝姫路城、姫路港、動物園、書写山など近場に良い所が多いので、日々足を鍛錬して最高の笑顔が見られるように、いろんな形で外出の機会を提供して欲しい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関前は狭く、傾斜のある坂道であり危険でもあるので、通常は、出入り口として使用されていない。ご家族も了解の上で施錠されている。ホームのリビングから窓越しに外の景色が見られるので閉塞感はなく、特別養護老人ホームへの通用口が開かれています。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年1回、避難訓練を行なっている。特別養護老人ホームへ廊下伝いに移動でき、扉一つで屋上へも誘導可能である。また、地元駐在所も近くにあるので、安心感を持てる。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>この日の総栄養量は1,600kcalである。昼食は美味しくできており、食べる量を考慮しているため適量であり、残す人はいなかった。また、暖房の効いた中、お茶、スポーツドリンクが用意されていた。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング兼キッチンが広くて、料理づくりの音、臭いが部屋中に漂っていた。窓越しに外の気配も感じられるので、みんなが集まって来やすい場所になっている。ホーム炬燵が希望なら、傍に立て掛けられている畳を敷くと出来上がる工夫もされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの人形が沢山置かれ、気持ちが継続できるように配慮されていた。室内は清潔で、サッシの戸を開けば横の庭に出られる。</p>		

 は、重点項目。